

「怖い電車」と「優しい電車」

通勤には地下鉄を使用している。この状況下の中、もちろんマスク消毒液等々使用しながらの通勤ではあるが正直「怖い」。とにかく空いている時間帯を選んで乗車をし、対策をしながら自己管理に努めてきた。乗車する前に一呼吸。できるだけこも触らないようにしてできるだけ人と離れて。

非常事態宣言が出されたその翌日から驚いた。全員座席に一つおきに座っており、立っている方も入り口付近に均等に立ち、「え？こんなふうに決まっていたんだ。」とすぐにネットで調べたが、国や都の政策にも盛り込まれてはおらず、自然発生したルールなのだろうと理解した。

「日本すごい！」

オーストラリア在住時には、どんな老紳士でも必ず女性に席をゆずるジェントルマンシップに感激をした私は、今度は、日本の自然に出来上がる規則に驚かされた。

確かに、水道で手を洗う時並ぼうねという日本の保育に対して、並ばずに話をしながら、適宜に譲りながら手を洗うというオーストラリアの保育に由来するのだろうか？と思った。

まず、オーストラリアで自然に規則ができるというのはないと思う。どちらかという、適宜に譲り合い話をしながら。でも人がやっているからと言ってそうはならない。それぞれの考え方があるので、周りがしているからというのはおそらく起きないと思う。ただしマスクに関しては、「どうしてマスクするの？そんなに具合悪いの？」と、お店でもマスクが販売してなかった記憶があるが、さすがに現在はマスクを着用しているらしい。

先日、その「怖い電車」の中で、仕事のメールを確認していたところ「子どもたちや保護者の現状はどうか？」と、ご心配してくださっている理事長からのメールに返信を始めたところ、電車に座っていた私は医療従事者等の保護者様のご様子を打ち込んでいる際に、涙が出始まった。前の席に人がお座りになっていたのに、なるべくわからないようにしていたが、打てば打つほど止まらない状況になってしまった。

すると、前の席にお座りになっていた、スーツ姿の30代ぐらいの男性2人組から「大丈夫ですか？」と声をかけられ、「大丈夫です」と「みんなで頑張りましょう」という励ましにどうにか収まり、彼らの下車の際にお礼を申し上げ、眼をつぶりながら、怖いが「優しい電車」だと思い園へ向かった。

東京での電車通勤<大変<コロナになりな大変と思っていた。また、お年寄りの方がいらっしゃっても、平気で席を譲らない等、嫌なイメージとコロナで「怖い電車」のイメージだったので、またこの「優しい電車」にも驚いた。

保護者の皆様も満員電車になったらどうしよう？仕事にも行きたいと心配しながらの毎日だと思います。今はまだ、コロナへの対処法がないので怖いことも事実です。

コロナについてどう対応するべきなのか？保護者の皆様のお仕事の分野でも、前例のない出来事で、仕事上の対応方法が「何が正しくて、何が間違っている」とは言えない場面が多いのではないのでしょうか？そんな時だからこそ、相手を思いやり、周りを思いやり、過ごすことが大切だと気づかせていただきました。

何が正しくて何が間違っているかわからない時には「安全に気をつける工夫をしながら知恵を出してやってみよう。何かあったらチームで軌道修正しよう」と子どもたちに言っているように、自分に言い聞かせながら「優しい電車」で通勤している、新緑爽やかな5月でございます。